

今学期とあと1週間あまりとなりました。

つぼみさんたちをはじめ新しいおとどちと仲よしが沢山! すっかり園生活に慣れてきました。「やる気」を更に身に付けて来た進級児たちのように「やる気満々」です。互いに刺激があるので、育ち合いの大きな実りが期待できます。学期末を有意義に送りましょう。

■今年はずいぶん蝶が園庭を飛びまわってました。白い蝶です。園庭であそぶこととたちにとっては絶好の刺激物です。

一匹がひらひらと舞う例年のようではなく、複数の蝶がこととたちの頭の上をひらひらと舞うので、こととたち大興奮です。

捕まえようと手を伸ばしながら追うこととたち。その手をまるであざ笑うかのように高く低く、右に左へと逃げまわる蝶たち、初夏の風物詩です。

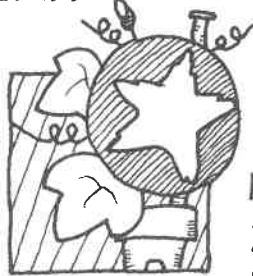
花壇の花にとまった蝶にそっと手を伸ばして捕まえようと真剣な眼差しのおとどちと居れば、飛んでいる蝶を偶然にも指に挟んでしまいびっくり困惑顔の子も居て園庭は連日大騒ぎです。

こととたちに「蝶はねお花のジュースを飲みに来るんだよ! 飲ませてあげてよ!」と言うと

「ふ〜ん、そうなんだ」と不思議そう。

2匹が戯れているのを見ていることとたちに「蝶さんたちとみんな一緒にだね!

おとどちたちとあそびたいんだ!」と説明すると「ニコッ!」と笑顔がこぼれました。



■つぼみ11号の1階のベランダの大きな戸は開けはなして。園庭で他の学年が遊んでいると

誰一人と外に出ようとするおとどちおられません。

「寝」なんです。

2歳で仲間入りしてまだ3ヶ月ちょっとです。

お話しをしっかりと聞いてます。

これからの楽しみが日増しに膨らむ

白粉の小さな巨人たちです!

(心の育ちシニア) **あそびの中に学びがいっぱい!! 手を出さないで!**

「学び」とは「きっとやればうまく行こう」と予測して、それをやってみて失敗し、考え直す-このくり返しです。このくり返し「試行錯誤」と言います。この「試行錯誤」にはポイントが二つあります。こう言っているのは「せいせい」教室主宰 栄光学園の井本 陽久先生です。次のように続けています。

一目のポイントは「失敗する事」です。人はうまく行っている時は自分の考え方を問い直す事はしません。うまく行っていない時、人は考える、自分を問い直します。だから失敗は必要なのです。

二目のポイントは「自分のやり方で、自分の考え方でやる」と言う事です。「うまく行こう」と予測して、うまく行かない時は「自分のやり方、考え方のどこが悪いのか」と振り返ることが出来ます。

でも、誰かが教えられたやり方でやった場合は、それがうまく行かないければ、すぐにネットや教科書でやり方を探したり、人に聞いたりするだけになってしまいます。

僕はこの「自分のやり方でやる」と言う事が今のこととたちには抜け落ちていて、試行錯誤がなかなか起らないと感じています。なぜなら、ことこの試行錯誤に大人が手を出すからです。本来こととは、大人が何を言わなくても自発的に試行錯誤します。その典型形が「あそび」です。

この「あそび」を通して学びの土台が培われるのです。

小学4年生くらいで「速さ×時間=距離」の公式を習います。この公式を習った時「なるほど」と腑に落ちる子は、すでにあそびの中でその概念を「五感を通して体験している」子なのです。

石を投げたあそびをして、「遠くは投げよう!」と思ったら、こととは自然に強く投げようとします。そこで、こととは速さが距離に関係することを体験しているのです。

僕は教室の中で授業してきましたが、教室での授業の限界は、こととして教室自体には何の魅力も無いと言うことです。でも、屋外に出るとこととたちはそれぞれ引き出されるものを見つけて、それに没頭します。

ことこのあそびが生き生きするかどうかは「自分のやり方でやっているか!」に尽きるのです。